

幼児にとっての時間(Ⅲ)——『イキイキ』の行動表出 と時間体験の個人差について——

岡野雅子
(愛知女子短期大学)

〔目的〕

第37回、38回大会発表にひきつづいて、子どもがイキイキと遊ぶことの時間的側面について考察する。

前回(第38回大会)は、2児を対象として観察することにより、同一の子どもでも遊ぶ姿は「遊び」の違いによりイキイキ表情に差異があり時間体験にも差異があるのではないかと、すなわち、個人内差に焦点をあてて検討を試みた。そこから得られた知見は、①子どもの内的時間の充実の可視的な現れには2つのスタイルがあり、真剣な表情で見入り聞き入るスタイルと、活動性が高く笑顔で周囲への反応も大きくなるスタイルであり、後者の方が外的指標としては捉えられ易い。②それぞれの遊びには各々の楽しさが存在し、各々のスタイルの異なるイキイキしさとなって現われる。2児例のみの資料からは、概して活動的なスタイルで現われる遊びの場合にはより長い時間経過と感じ、非活動的なスタイルで現われる遊びの場合にはより短いと感じる傾向がある。③「イキイキと遊ぶこと」には一定のスパンがあり、「遊び込むこと」は、外的共同体的時間の多少とは独立した内的主体的時間経過を必要とする。④これらのことから、遊びの流れの収束は、子ども自身の内的時間の充実が主導権をもつことを示唆する、などのことがらであった。

しかし、前回は対象児がわずかに2児例のみであるため、これらの知見のいくつかについては、その一般化についての検討は今後の課題として残されることとなった。

今回は、子どもによる違い、すなわち個人間差に焦点をあてて検討を試みたい。「遊び」の違いと、遊ぶ姿の違いと、時間体験の違い、の間の関連を探ることにより、「イキイキとよく遊ぶ子」として周囲(保育者など)に捉えられている子にとっての内的時間と、「イキイキと遊ぶことの少ない子」として捉えられている子のそれとは、どのように異なるのかについて考察を試みる。

〔方法〕

1) 対象児 愛知県下の公立4保育園どう組(年長児)及びこぐま組(年中児)に在園する幼児全員。(ただし8月であったため休みが多く、年長児は14名、年

中児は15名である。)

2) 観察時期 昭和60年8月の7日間。

3) 手づき 前回(第38回大会発表)と同様である。保育園での遊びの状態を1日1〜3つ計14の場面を観察しVTRにて記録し原資料とし、「遊び」の終了後時間量の知覚について及び楽しさについて質問をした。原資料(VTR)は後日、担任保育者を含む3名により観察・検討を行ない、遊ぶ姿について4段階評定によりイキイキ度として一応の得点化を行なった。

〔結果と考察〕

1) 『イキイキ』の表出と「楽しさ」の関係

表1は、ある日の午前中の「遊び」2つを比較した結果を示している。13人中4人は本人による「楽しさ」と観察によるイキイキ度が不一致である。そして、その不一致は、室内系の遊びにも運動系の遊びにも認められどちらかに片寄ることはない。このことは、一見、外的にはイキイキとしていない状態であっても、本人(子ども)の内的世界は充実し、「遊び」を楽しんでいることが示唆される。

2) 「遊び」の時間知覚と「楽しさ」の関係

表2-(a)から、毎日のように繰り返行なわれている同種の遊び(いわばルーチン化したもの)の場合には、時間比較は容易となり、経過時間量の知覚に誤りが少ないことがわかる。

また、表2-(b)から、本人(子ども)にとって「楽しかった」遊びの方を長いと感じる傾向が見い出せる。しかし表2-(c)からは「フィンガーペインティングが楽しかった(ボールはどちらかというつまらなかった)」が15人中8人で、そのうち「ボールが長かった」(実際にはボールは1/2の時間量だが)と感じた者が4人いる。

つまり、同程度の時間量の経過の場合には、楽しい「時」を伴った遊びの方を長時間と感じ、他方、楽しい「時」を伴わない時間体験は実際の2倍にも3倍にも長く感じるということではないだろうか。しかしながら、この結果は、楽しかった遊びも長く感じ、楽しくなかった遊びも長く感じるという不合理なものとなる。これはまさに、自己が主管である内的充実の時を伴っているか否かが鍵であることを示唆すると考えられる。すなわち、「長かった」と感じる時間経過の受けとめ

方は両者で大きく異なり、子どもがイキイキと主体的に内的充実を味わい楽しむ体験を伴う場合には、外的時間はたとえ10分間であろうとも自己の内にある主体的時間としてそれは広大な拡がりをもつのではなからうか。他方、そのような体験を伴わず自己と隔たったところで過ぎて行く外の世界は、退屈でありその終焉を待つのは果てしなく長く感じるのではないだろうか。

これらの結果から、若干の考察を試みたい。

① イキイキしさの構造について

外的イキイキしさがしばしば観察される子どもの中には、遊びのタイプにかかわらず、内的充実が察せられる子どもも多い。そして彼らは「遊びに対してノリのよい子」として概して保育者による評価も高い。しかし、一見外的イキイキしさはほとんど表出しない子どもの中にも、本人は内的充実の「時」を体験し、遊びを楽しんでいる子どもがいることは注目すべきであろう。

一見、イキイキと遊ぶことが少ない子(非イキイキ子)が「楽しかった」と表明する遊びにおいて、彼らはその特徴として、周囲をよく観察し、あるいは、紙芝居や本の読み聞かせの際の主人公に同化して、その世界に浸っている。いわば「自分の領域の中で楽しむ」楽しみ方をしている。彼らにとっては、この楽しみ方に関する限りは、十分に集中して内的充実の時を体験していると言えよう。しかし、その自らの領域を破り、外界の子どもや事象に対して主体的にかかわることには、自己をどのように表現したらよいのかわからず戸惑ってしまうのではないだろうか。

② 「しらけ」についての考察

表情の変化が乏しく、主体的に外界とかわかることが少ない子どもは、周囲の大人たちに「しらけ」といってと解釈されがちであり、「何を考えているのかわからない」「遊びが楽しいのか楽しくないのかわからない」という感想を抱かせる。しかし、彼らの多くは、外界からの、例えば保育者からの、刺激や方向づけには十分に反応し、そこそここなすことができる。つま

表1. 時間知覚と喜びと作付度の関係

遊び「プール」(37分)と「切符作り」(37分)		長	
S男	楽 2.5	—	1.5
T男	長 2	—	1*
M男	長 1.5	—	2*
M男	楽 1.7	—	2*
H男	長 1.5	—	0.7
T男	1	—	2.3
H男	楽 2.5	—	1.3
K子	長 2.5	—	1.7*
A子	長 1.3	—	1.3
T子	楽 2.5	—	1
S子	1	—	2
N子	2.3	—	2.7
T子	1	—	1.3

長:本人にとって時間経過が長かったと思う方の遊び
楽:本人にとって楽しかった方の遊び
数字は観察による作付度
*印は本人による喜びと作付度が不一致の場合

表2. 時間知覚について

(1) プール(37分)と切符作り(37分) (注:表1) 「プール」が長いと思った 13人中5人(うち楽しかった3人) 「切符作り」が長いと思った 13人中8人(うち楽しかった5人)
(2) きょうのプール(15分)ときょうのプール(37分) 「きょうのプール」が長いと思った 11人中2人(うち楽しかった1人) 「きょうのプール」が長いと思った 11人中8人(うち楽しかった6人) (他に、「同じ」と思ったが1人)
(3) フィンガー・ペインティング(30分)とプール(15分) 「フィンガー・ペインティング」が長いと思った 15人中8人(うち楽しかった3人) 「プール」が長いと思った 15人中7人(うち楽しかった2人)

り、できない子ややれない子ではない場合が多く、それゆえに、かえって保育者の手変わらずさせない子でもある。

彼らは、周囲が思う程には本人は楽しんでいないわけではないようである。つまり、イキイキしさの構造において、内的イキイキ、内的な精神の飛翔や躍動は体験しても、その行動としての表出が身についていないのではないか。自己の表現の仕方が未習得であり、それは他者とのかわり方の未熟とも平行していよう。

③ 『イキイキ』『ワクワク』と、想像力と、内的時間の関係

「ワクワク」として自己の世界が躍動するのは、想像力による先への展望のある時に体験されることである。充実した内的時間は、想像力と深く関係し、自己自身による先への期待を伴って展望を持つ時に、いまのこの瞬間が広大な内的時間枠の中に位置づけられて体験されるのだと考えられる。それは「思いきり」とか「遊び込み」と表現されるものである。想像力を伴わない「遊び」の場合の時間経過は、子どもの精神世界とは離れた時間空間となり、表面的側面のみ目の前の『作業』に成り下り、苦役の様相を呈してくる(例えば本資料における「夏祭りのための看板作り」)。

現代は時間的受動性の中で絶えず時間により切りきざまれていく生活を余儀なくされている。例えば、TVは聞き手の側の感慨の程度にはおさまいなく一方的に流れ出て、それははてしなく外的時間を消費してゆく。

このような状況の中で育たねばならない現在の子ども達は、けして初めからシラケているわけではなく、彼らの内的時間空間においては充実した時をもち、その限りにおいては十分にイキイキと遊ぶ体験をしているにもかかわらず、それを他者と共有してより大きなワクワクやイキイキに創造してゆくすべを知らないのではないだろうか。

いまを主体的時間内の展望の中で捉える能力が、外的共同体的時間とは独立した内的主体的時間を豊かに育てることに深くかかわっていることが示唆される。